

洗足学園音楽大学

グリーン・タイ ウインド・アンサンブル

2018年度演奏会

Senzoku Gakuen College of Music Green-Tie Wind Ensemble



指揮
ティモシー・レイニッシュ
Timothy Reynish

Jubilees! 80-10



指揮
ダグラス・ボストック (客員教授)
Douglas Bostock

伊藤 康英・企画運営責任者

2018年7月1日[日] 15:00開演 | 14:30開場

～ ティモシー・レイニッシュ 80歳記念 ～

戦争と平和 War and Peace

2018年12月11日[火] 18:30開演 | 18:00開場

～ グリーン・タイ 10周年記念 ～

吹奏楽の古典名曲を名匠ボストックと Vol.9
Douglas Bostock Presents Masterworks for Winds Vol.9

リジョイス! - 祝賀 Rejoice!

Programme

A. ゴープ/アウェイデイ
Adam Gorb / Awayday (1996)

G. ウールフェンデン/イリュリア人の踊り
Guy Woolfenden / Illyrian Dances (1986)

D. デル・トレディチ/戦時に
David Del Tredici / In Wartime (2003)

L.S. アラルコン/コンチェルトタンゴより 第1楽章
Luis Serrano Alarcón / 1st Movement from Concertango (2004)
アルト・サクソフォーン独奏 荒木 真寛(学4)

伊藤康英/タイム・イントゥ・ミュージック (日本初演)
Yasuhide Ito / Time-Into-Music (2018) - Japan Premiere

C. マーシャル/ロム・アルメ (武装した人)
Christopher Marshall / L'homme armé (2003)

Programme

伊藤康英/吹奏楽のための祝祭曲「集え、祝え、歌え」
Yasuhide Ito / Festeggiamo e cantiamo, musica festiva (1998)

O. ヴェスピ/讃歌
Oliver Waespi / Il Cantico (2005)

J. シュテルト/バッハザイツ
Johannes Stert / Bachseits (2011)

A. ホヴァネス/交響曲第53番「星の燭光」
Alan Hovhaness / Symphony No.53, Op.377, Star Dawn (1983)

V. ネリベル/S-S-S (砂粒・静けさ・寂しさ) (日本初演)
Václav Nelhybel / Sand-Silence-Solitude (19***) - Japan Premiere

真島俊夫/三つのジャポニスム
Toshio Mashima / Les trois notes du Japon (2001)

会場

洗足学園 前田ホール

JR南武線「武蔵溝ノ口」駅
東急田園都市線・大井町線「溝の口」駅 南口下車徒歩8分

入場料

¥1,000 (各公演・全席自由)

※写真・ビデオ等の撮影および録音は固くお断りいたします。
※駐車場はございませんので、お車でのご来場はご注意ください。
※公演内容は変更になる場合がございます。



【主催】洗足学園音楽大学・大学院 【後援】「音楽のまち・かわさき」推進協議会

ひと、音楽、未来、世界をつなぐ。洗足学園音楽大学は、音楽の学びと実践を通じて、豊かな社会づくりに貢献します。



洗足学園音楽大学

所在地 …… 〒213-8580 神奈川県川崎市高津区久本2-3-1
お問合せ …… 044-856-2713 (平日10:00~17:00)
Eメール …… ensou@senzoku.ac.jp

学校情報 …… www.senzoku.ac.jp
演奏会情報 …… www.senzoku-concert.jp
アクセス [senzokugakuen](#) 検索

You Tube facebook
オンラインでも演奏会をご覧いただけます。





洗足学園音楽大学

グリーン・タイ ウインド・アンサンブル

学園の色の一つ「緑」を冠した吹奏楽団。2009年、作曲家・伊藤康英(本学教授)と共に始動。作曲家の視点を交えた楽曲分析やこだわりの選曲が特徴。これまでに、ダグラス・ボストック、ティモシー・レイニッシュ、藤岡幸夫、秋山和慶、増井信貴、本名徹次といった名だたる指揮者を招聘。海外交流も積極的に行い、台湾、シンガポール、韓国にて交流演奏会を持つ。2016年には沼津(静岡県)公演を行った。2017年、WMC国際指揮コンクール予選マスタークラスのモデルバンドを務めた。藤岡幸夫氏がナビゲーションを務めるBSジャパン「エンター・ザ・ミュージック」にもたびたび出演。その他、福島県の伊達市歌レコーディングなど、活発な活動を行う。指導陣には、斯界で知られる近藤久敦(本学講師)、仲田守(本学講師)を配し、アカデミックコーディネーターとして福田昌範(本学講師)を擁する。

GWE最新情報やメッセージ、SNSで続々発信中!

facebook

Twitter

Instagram



洗足の吹奏楽

facebook



Jubilees!

伊藤 康英 作曲家・本学教授・GWE運営責任者

ティモシー・レイニッシュ80歳、そしてグリーン・タイ ウインド・アンサンブル10周年。今年は特別なコンサートになる。

昨年、22年ぶりの来日となったティモシー・レイニッシュ氏(「ティム」と愛称で呼ぼう)が、われわれグリーン・タイ ウインド・アンサンブル(GWE)にもたらした功績は大きかった。巨匠から学んだことは数多い。そしてティムは、今年の3月9日で傘寿すなわち80歳を迎えられた。世界各国からお祝いの作品が届きつつあるし、記念演奏会が催されている。(私も一作、捧げることにした)。

しかしそのプログラムの中には、2003年のイラク戦争に影響されたアメリカとニュージーランドの作曲家による2つの作品が並ぶ。そして、日本、スペイン、イギリスの作曲家から平和の祝いの声。

すべてティムと関係の深い作品ばかりだ。吹奏楽の魔術師ティムの来日を心待ちにしたい。

なお、今回の招聘に際しても、ティムのかつての弟子であった指揮者・藤岡幸夫氏の多大なる協力をいただいた。深く感謝いたします。

さて12月には、これでGWEへの10度目の登場となるダグラス・ボストック氏とのコンサート。洗足学園音楽大学の吹奏楽授業が、現在の形態となって10年目、グリーン・タイ10周年のお祝いである。

22年前にこの世を去ったネリベルは、特に吹奏楽作品でいまだに人気を誇る作曲家であるが、実は、まだ初演されていない作品や日本に紹介されていない作品が数多く存在する。2015年に「トッカータ・フェロー・チェ」の日本初演を行なったのはGWEであった。今後もネリベル作品を発掘すべく、今年も日本初演曲を紹介する。このプロジェクトについては、ネリベルやリードの研究として名高い村上泰裕氏の協力を得た。

また、プログラムには、ボストック氏や伊藤と関係の深い作品が並ぶ。日本を出発して、スイス、ドイツ、アメリカ(アルメニア)、チェコ、そしてまた日本と作曲家が並ぶ多彩さ。

さて、さまざまなニュースに満ちた本年度のGWEは、吹奏楽の音色感に一層の磨きがかかりつつある。「これが吹奏楽の響きなのだろうか!」「吹奏楽はこんなに魅力的な音楽なのか!」と思わせるGWEサウンドを、今年もぜひご堪能いただきたい。

指揮 ティモシー・レイニッシュ Timothy Reynish



ケンブリッジ大学卒業後、サドラーズ・ウェルズ・オペラ管、バーミンガム市交響楽団などで首席ホルン奏者を務める。指揮をジョージ・ハースト、チャールズ・グローヴス、エイドリアン・ポルト、ディーン・ディクソン、そしてシエナのキジアーナ音楽院にてフランコ・フェララに学んだ。ニューヨークのミトロプーロス国際指揮者コンクールの

優勝者として、英国の主要なオーケストラを指揮。1975年、王立ノーザン音楽大学の大学院指揮科の助手として招かれ、その2年後に管打楽器科の主任に任命された。同大ではオペラの指揮も手がけ、「フィガロの結婚」「魔笛」「ラ・ボエム」「期待」やブリテンの数々のオペラを指揮した。王立ノーザン音楽大学管弦楽団とは、ベートーヴェン、ブラームス、ドヴォルジャーク、チャイコフスキー、ブルックナー、マーラーらの交響曲、リヒャルト・シュトラウスの交響詩、ストラヴィンスキーの「火の鳥」「ペトルーシュカ」「春の祭典」、ヴェルディの「レクイエム」、ティベットのオラトリオ「我らの時代の子」などを指揮した。

レイニッシュは、世界屈指のウィンド・バンドおよびウィンド・アンサンブルの指揮者として知られている。王立ノーザン音楽大学では、ウィンド・オーケストラとウィンド・アンサンブルを世界最高の水準に引き上げ、また著名な作曲家たちに100曲以上の委嘱新作を作曲してもらい、音楽祭にも定期的に出演した。これまでアジアを始め、カナダ、南米、ヨーロッパ、米国でクリニックや講演、客演指揮およびコンクールの審査を行っており、Maecenas Music出版のエディターも務める。国際色に富んだレパートリーを収録した商業レコーディングは17枚におよび、最新盤は米国の沿岸警備隊バンドとの録音である。2015年はシドニー音楽院でウィンド・オーケストラの客演指揮者を7週間務めたほか、リスボン音楽院、香港およびドイツで演奏会を行なった。昨シーズンは、ロンドンの王立音楽大学とトリニティー・ラバン大学、イサカ・カレッジ、シンガポールおよび米国などで演奏会を行なった。

www.timreynish.com

指揮 ダグラス・ボストック Douglas Bostock (客員教授)



ダグラス・ボストックは、現在スイスのアルゴヴィア・フィルハーモニック首席指揮者として、また1992年よりチェコ・チェンバー・フィルの首席客演指揮者として、ヨーロッパ、アメリカ、日本で幅広く活躍。2000年から10年間にわたって世界的に高い評価を受ける東京佼成ウィンドオーケストラの常任指揮者、その後首席客演指揮者も務め、2010年のヨーロッパ・ツアーも大成功に導いた。オペラの分野でも活動の幅を広げ、スイスの

ハルウィル・オペラ音楽祭の音楽監督も務めている。その他これまでカールスバッド響音楽監督及び常任指揮者、ミュンヘン響首席客演指揮者、コンスタンツ南西ドイツ・フィル音楽監督を歴任。

幅広いレパートリーの中でもイギリス、チェコの音楽の解釈は特別な評価を受けており、ウィーン古典派様式の新鮮かつ歴史的なアプローチは批評家、オーケストラ、聴衆にも賞賛されている。また現代音楽の熱心な擁護者でもあり、たびたび作曲家とのコラボレーションや初演にも取り組んでいる。

これまでBBC響、ロンドン・フィル、ロイヤル・フィル、ロイヤル・スコティッシュ管、プラハ響、チェコ放送響、シュトゥットガルト室内管、北ドイツ・フィルなど欧米各国、日本でも新日本フィル、京都市響、名古屋フィル、アンサンブル金沢等のオーケストラと活発に指揮活動を展開。

レコーディングも数多く、中でもニールセン、シューマンの一連の交響曲集は国際的に高い評価を得ている。また現在進行中のプロジェクト「プリティッシュ・シンフォニック・コレクション」は、世界中の評論家、音楽ファンの注目を集めている。

東京藝術大学音楽学部招聘教授を歴任。本学客員教授。

www.douglasbostock.net



レイニッシュ氏(左)とボストック氏(右)
(2017年10月、南ドイツにて)